

# Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2024  
APRIL

No. 719

Sat. 20th April  
Subscription Concert

No. 95

Sun. 21st April  
Kawasaki Subscription Concert

4



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太樓
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆
名誉コンサートマスター	大谷康子
第1コンサートマスター	小林杏成
	グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 夏野 剛
	大橋 博 南部靖之
	コンジュンク 福川伸次
	庄司 薫 藤原 洋
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子
監 事	磯村文靖
	寺西基之
評議員長	金山茂人
最高顧問	梅沢一彦 中村紀子
評議員	篤海暲明 星 久人
	片山泰輔 山添 茂
	加藤英輔 芳野まい
特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

### 1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 吉川万理

### 2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 塩谷しずか
- 渡辺裕子

### Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西応興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 新井瑞穂\*
- 金田凜司\*

### Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 笹沼 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 蟹江慶行●
- 樋口泰世
- 福崎茉莉子

### Double Basses

- 助川 龍
- コーディネーターズブーム
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子

### Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛

### Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

### Oboes

- 荒 給理子
- 浦脇健太

- 荒木良太\*

### Oboe & English horn

- 最上峰行

### Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

### Bassoons

- 福士マリ子
- 福井 蔵
- 坂井由佳
- 前関祐紀

### Horns

- 上間善之
- 加藤智彦
- 阪本正彦
- 清根伸吾
- 白井有琳\*

### Trumpets

- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 萌
- ローリー ディラン\*

### Trombones

- 大馬直人
- 馬塚心輔
- 住川佑祐

### Bass Trombone

- 藤井良太

### Tuba

- 近藤陽一

### Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 新川淳美
- 網澤義美

### Librarians

- 林 知也
- 加藤幸子

### Stage Managers

- 西岡理佐
- 山本 聡

### 楽団員

- 井伊 準◆

### 楽団長

- 廣岡克隆

### 編成局シニア・ディレクター

- 藤原 真

### パーソンネル・マネージャー

- 謝名元 民

### 楽団委員

- 小西応興 (議長)
- 福留史紘 (書記)
- 清水泰明
- 多井千洋
- 北村一平
- 藤井良太

### 事務局長

- 辻 敏

### 事務局

- 市川萌都
- 伊藤瑛海
- 榎 日向
- 小川博司
- 尾木貴雄
- 桐原美砂
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保太郎
- 山田道子
- 梶川純子
- 三橋真琴\*

### 名誉団友

- 深江泰輔◆
- 三木晴雄◆

### 団 友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依世
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 内田彬雄
- 内田乃利子
- 宇部 実
- 梅田 学
- 大隅雅人
- 大和浩明
- 大和浩明
- 大和ルース
- 小川さえ子
- 荻野 昇
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加藤谷直美
- 笠原勝二
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 黄原亮司
- 小林照雄
- 小林亮子
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 篠崎 隆
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 曾根敦子
- 武田英昭
- 田中真輔
- 千村雅信
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場弘弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアンテ・
- ボーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みさ子
- 諸橋健久
- 渡辺 功
- 渡辺哲郎

☆ソロ首席奏者 ●首席奏者 □客演首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター

■本部長 □シニア・ディレクター \* 研究員・準事務局員 ◆ 故人

# 演奏会でのお願い Concert Manner Guide



## チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。  
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



## 演奏中はお静かに

手荷物に付けている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご  
配慮ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめく  
る音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内  
に響きます。

Please be silent during the performance.



## 開演前に携帯電話、時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は  
必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and  
all other noise-emitting electronic devices before the  
performance begins.



## 周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は  
脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりま  
すのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way  
which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



## カーテンコールを除いて、 ホール内での録音・録画・ 許可のない写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited,  
except for Curtain calls.



## 演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の  
開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.



## 補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるために  
きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check  
that your device is suitably set before the performance  
begins.



## 開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場  
合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a  
performance.



## 咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from  
any coughing or sneezing.



## 曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance.  
Please hold your applause until the actual end of the performance.

## カーテンコールの 撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリー  
ズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可  
能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお  
客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません

◎フラッシュの使用、目線より  
高い位置での撮影はご遠慮ください

◎SNS等に掲載する際は、  
ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、  
自撮り棒の使用はご遠慮ください

## 4/20 SAT. 21 SUN.

## 第719回 定期演奏会

2024年4月20日(土) 18:00 サントリーホール

## Subscription Concert No.719

Sat. 20th. April 2024, 18:00 Suntory Hall

## 川崎定期演奏会 第95回

2024年4月21日(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

## Kawasaki Subscription Concert No.95

Sun. 21st. April 2024, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

サカリ・オラモ [指揮]

アヌ・コムシ [ソプラノ]

小林 啓成 [コンサートマスター]

Sakari ORAMO, Conductor

Anu KOMSI, Soprano

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ラウトヴァーラ: カントゥス・アルクティクス  
(鳥とオーケストラのための協奏曲) op.61 (18')

I. 湿原 II. メランコリー III. 渡る白鳥

E.Rautavaara: Cantus Arcticus  
Concerto for Birds & Orchestra op.61 (18')

I. The Bog II. Melancholy III. Swans Migrating

サーリアホ: サーリコスキ歌曲集(管弦楽版)  
<日本初演> (15')I. 自然の顔 IV. 私の中の鳥と蛇が  
II. それぞれのこれ V. 霧を抜けて  
III. すべてこれは

休憩 (20')

K.Saariaho: Saarikoski Songs (orchestra version)  
<Japan Premier> (15')I. Luonnon Kasvot IV. Minussa Lintu ja Käärme  
II. Jokaisella on tämänsä V. Sumun läpi  
III. Kaikki tämä (All of this)

Intermission (20')

シベリウス: 交響詩「ルオンノタル」 op.70 (10')

ドヴォřák: 交響曲 第8番

ト長調 op.88 (34')

I. アレグロ・コン・プリオ  
II. アダージョ  
III. アレグレット・グラツィオーソ  
モルト・ヴィヴァーチェ  
IV. アレグロ・マ・ノン・トロツボ

J.Sibelius: Luonnotar op.70 (10')

A.Dvořák: Symphony No.8  
in G major op.88 (34')I. Allegro con brio  
II. Adagio  
III. Allegretto grazioso – Molto vivace  
IV. Allegro, ma non troppo

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)|独立行政法人日本芸術文化振興会)
- 後援/川崎市(4/20)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(4/20)、フィンランド大使館
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(4/20)

楽曲解説はP.06をご覧ください

4/20 SAT. 21 SUN.



# Sakari ORAMO

Conductor

サカリ・オラモ  
[指揮]

フィンランド出身。BBC交響楽団首席指揮者、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団桂冠指揮者、フィンランド放送交響楽団名誉指揮者。世界屈指のオーケストラと共演を重ねており、多数の録音もリリースしている。明晰な指揮とその構築力は、権威、美しさ、情熱を兼ね備えると評されている。

2023/24年シーズンは、チェコ・フィル、フランス放送フィル、ロイヤル・ストックホルム管、フィンランド放送響等を指揮。近年では、ベルリン・フィル、ウィーン響、ボストン響、ニューヨーク・フィルとの共演が記憶に新しい。

1998～2008年バーミンガム市交響楽団音楽監督、2003～12年フィンランド放送交響楽団首席指揮者、2008～21年ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者を務める。かつてフィンランド放送交響楽団コンサートマスターを務めており、優れたヴァイオリニストでもある。

Chief Conductor of BBC Symphony Orchestra, Conductor Laureate of Royal Stockholm Philharmonic Orchestra, Honorary Conductor of Finnish Radio Symphony Orchestra, a guest conductor at the highest international level and a prolific recording artist, Sakari Oramo's performances combine crystalline structural cohesion with authority, elegance and passion.

The 2023/24 season sees Oramo returns to Czech Philharmonic Orchestra, Orchestre Philharmonique de Radio France, Royal Stockholm Philharmonic Orchestra and Finnish Radio Symphony Orchestra. Notable engagements from previous seasons include those with Berliner Philharmoniker, Wiener Symphoniker, Boston Symphony Orchestra, and New York Philharmonic.

Throughout his career, Oramo has held numerous prestigious positions; Music Director of City of Birmingham Symphony Orchestra from 1998–2008, Chief Conductor of Finnish Radio Symphony Orchestra from 2003–2012, and Chief Conductor of Royal Stockholm Philharmonic Orchestra from 2008–2021. An accomplished violinist, Oramo was originally concertmaster of Finnish Radio Symphony Orchestra.



# Anu KOMSI

Soprano

アヌ・コムシ  
[ソプラノ]

大胆なテクニックとクリスタルのような魅惑的な声で知られる、フィンランドを代表するソプラノ。数多くの現代作曲家と共演を重ねるコムシは、現代音楽の先駆者的活動に加え、名曲と知られる作品においても常に新鮮で印象的な解釈で取り組んでいる。卓越したキャリアを通じ、ノリントン、オラモ、ネルソンス、サロネン、ギルバート、ウェルザー＝メスト、エトヴェシュ、ロト、リントウ、ロウヴァリ、ペルトコスキといった一流の指揮者たちと共演。

2023/24年シーズンには、オラモとともにBBC響、フランス放送フィル、ロイヤル・ストックホルム・フィルと共演したほか、ドヴォルザーク・プラハ音楽祭、キッシンゲンの夏音楽祭に出演。カイヤ・サーリアホ、ジョージ・ベンヤミン、セバスチャン・ヒリ、ララ・ポーの作品を初演するなど、意欲的に現代音楽に取り組むほか、エリントン『聖なるコンサート』、バッハのオラトリオ、シュトラウス『4つの最後の歌』、マーラーの交響曲、シベリウスの歌曲など幅広いレパートリーを誇る。

Known for her “technical daring” and “captivating crystalline quality” Anu Komsí is one of the world’s foremost singers. A regular and iconic collaborator with myriad contemporary composers, Komsí’s performances often serve as the blueprint for future productions, and she continues to bring fresh and affecting interpretations to traditional roles and concert repertoire. Throughout her eminent career, she has worked with leading conductors including Sir Roger Norrington, Sakari Oramo, Andris Nelsons, Esa-Pekka Salonen, Alan Gilbert, Franz Welser-Möst, Peter Eötvös, George Benjamin, François-Xavier Roth, Hannu Lintu, Santtu-Matias Rouvali, Tarmo Peltokoski.

In the 2023/24 season, Komsí performs alongside Sakari Oramo with BBC Symphony Orchestra, Orchestre philharmonique de Radio France, Royal Stockholm Philharmonic Orchestra, and appears at Dvořák Prague Festival and Kissinger Sommer. Ever-dedicated to contemporary music, she sings local and world premieres of works by Kaija Saariaho, George Benjamin, Sebastian Hilli, Lara Poe, as well as continuing to perform Ellington’s Sacred Concert, Bach’s oratorios, Strauss’ Vier Letzte Lieder, Mahler’s symphonies and Sibelius’ songs.

## 4/20 SAT. 21 SUN.

エイノユハニ・ラウタヴァーラ (1928 ~ 2016)

## カントゥス・アルクティクス (鳥とオーケストラのための協奏曲) op.61

ラウタヴァーラはシベリウス以降、最も国際的に名の知れたフィンランド人作曲家のひとりである。多数の新たな作曲技法が波のように押し寄せた戦後モダニズムの時代の最中、それらの全てを学び取ることが自身の義務と考えていたラウタヴァーラにとって、それらを学ぶための最良の手段は「実際に使用して作曲すること」であった。かくして変転する彼の音楽において、1960年代後半から1970年代前半は、十二音技法やセリエリスムを捨て去り、新たな実験的要素の使用と共に晩年に見出された彼のロマン主義的・神秘主義的な音楽へと移る移行期に当たるが、まさに《カントゥス・アルクティクス (鳥とオーケストラのための協奏曲)》op.61 はその代表たる作品と言えるだろう。

本作は1972年にオウル大学 (世界最北の総合大学) の博士号授与式のために書かれたもので、当時のフィンランド大統領ウルホ・ケッコネンに捧げられた。副題には「協奏曲」の名が与えられているが、そのソリストは名の通り「鳥の声」である。フィンランド中部に位置するリミンカという湿地帯の鳥の鳴き声を作曲家自身が録音したものを使用しており、鳥たちの声と音楽が互いに対位法を成すかのように描かれている。全3楽章からなる本作は、それぞれに異なるタイトルが与えられている。第1楽章「湿原」の第1小節目にある「秋とチャイコフスキーを想え」との指示からも、ラウタヴァーラのロマン主義的精神の投影が見られるだろう。フルートによって歌い次がれるフレーズに重なるように、やがて鳥たちが歌い始める。第2楽章「メランコリー」のスコア冒頭には「オーケストラは演奏を止め、2つのチャンネルの鳥たちが、お互いの真似をしているのに聴衆が気付くために十分な時間を与えよ」との指示がある。第3楽章「渡る白鳥」ではオオハクチョウの群れの声がオーケストラの高まりと共に次第に拡大され、鳥たちの壮大な飛翔を思わせる。余談だが、オオハクチョウはフィンランドの国鳥でもあり、春を告げる鳥として愛されているほか、フィンランドの神話『カレヴァラ』においては死の国トゥオネラとを別つ黒い川に住む神秘の鳥でもある。

小川 至 Text by OGAWA Itaru

作曲: 1972年

初演: 1972年10月18日オウル、スティーヴン・ポートマン指揮、オウル交響楽団

編成: 鳥の声を収録したテープ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、テナートロンボーン1、ティンパニ、シンバル、銅鑼、ハープ1、チェレスタ1、弦5部

カイヤ・サーリアホ(1952～2023)

## サーリコスキ歌曲集(管弦楽版)

サーリアホもまた、シベリウス・ラウタヴァーラと同様に最も世界的に著名なフィンランド人作曲家のひとりに数えられる。自身の活動を1980年代に本格化させたサーリアホらの世代の作曲家たちにとって、急進的な音楽は自身たちが切り開くべき新たな地表として捉えられた。サーリアホにおいては、1982年からパリに拠点を移し、IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)においてエレクトロニクス等の新たな技術や音響的知識を身に着けたことで、彼女の音楽の特徴とも言える新たな色彩感や豊かな感情表現の手段を得るに至った。しかし1990年代頃からのサーリアホは次第に伝統的な音楽語法への回帰を見せるのだが、とりわけ特徴的なのは、のちの代表作となる6つのオペラに見られるような「旋律線の復活」である。《サーリコスキ歌曲集》もまた、そうした流れの中で生まれた作品のひとつと言えるだろう。

本作はサーリアホの最晩年に当たる作品である。もとはピアノとソプラノのために2013年から17年にかけて書かれた作品だったが、2020年にボストン交響楽団とライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団から委嘱を受けた際に、後半の2曲を追加し管弦楽伴奏版へと書き換えられた。テキストにはペンツィ・サーリコスキ(1937～83)の詩集『地域 (Alue)』(1973年著)から、人生と自然についての個人的な感興が描かれた5つの詩が用いられている。本作ではソプラノを詩の意味を伝える存在としてだけでなく、意味を超えた音響的な効果としても用いられており、それがオーケストラの色彩をより深化させているとも言えるだろう。第1番(自然の顔)ではソプラノは風や「絶滅し死に絶えた鳥たちの歌」と溶け合い、第2番(それぞれのこれ)では「mahdottomaksi(不可能)」の単語がアクセントで区切りながら苛立ちと共に歌われる。第3番(すべてこれは)では自然への汎神論的な感謝が瞑想的に歌われ、第4番(私の中の鳥と蛇が)ではオーケストラのプリミティブな反復音が獐猛な雰囲気掻き立てる。第5番(霧を抜けて)では、その静かな灰色の色彩が「石化した空白の時間」を思わせる。またそれは本作を作曲した2020年が、コロナ禍の最中であったことも同時に連想させるのである。

小川 至 Text by OGAWA Itaru

作曲:2013～20年

初演:2022年2月24日ボストン・シンフォニーホール、アンドリス・ネルソンス指揮、アナ・コムシ独奏、ボストン交響楽団

編成:ソプラノ独唱、ピッコロ1(アルト・フルート持替1)、フルート1、オーボエ1、イングリッシュホルン1、クラリネット1、バスクラリネット1、ファゴット1、コントラファゴット1、ホルン2、トランペット1、ティンパニ、シンバル、シンギングボウル、シロフォン、木琴、アンティークシンバル、トライアングル、ウッドブロック、ウッドチャイム、ギロ、グラスチャイム、タンバリン、鈴、小太鼓、中太鼓、大太鼓、銅鑼、チェレスタ、弦5部

## 4/20 SAT. 21 SUN.

ジャン・シベリウス (1865 ~ 1957)

## 交響詩「ルオンノタル」op.70

1908年、悪性の咽頭腫瘍の摘出手術を受けたシベリウスは、新たな危機に直面していた。再発防止のために医師から言い渡された7年という長期にわたる禁煙・禁酒の通告である。もとよりシベリウスは20世紀初頭より、自国の不安定な政情、作曲における病的なまでの自己批判精神に加え、1904年に居を移した住居「アイノラ」の借金苦も重なり多大なストレスを抱えていた。彼にとってこれらを解消しうる最大の友が飲酒と喫煙であった。この両者を封じられたシベリウスは、元来の様々な心労に加え、死への恐怖と向き合いながら、禁欲的生活の中で一層自己の内面に向かいながら音楽を深めてゆくこととなる。作曲家における「暗黒期」である。

当時のフィンランドにおいて花形のオペラ歌手であったアイノ・アクテ(1876~1944)の委嘱により書かれた、ソプラノとオーケストラのための 交響詩《ルオンノタル》op.70は、この時期の末期に作曲された作品である。「ルオンノタル」とはフィンランドの民族的叙事詩『カレヴァラ』に登場する大気の精の名であり、天地創造を描いた本作のテキストはこの書の第1章に置かれている。本来であれば140行ほどにも及ぶ長編なのだが、本作の作曲に際してシベリウスが自由に構成や詩行の順番を入れ替えている。虚空のはざままで激しい風や波と交わった大気の精霊が受胎の末に水の乙女となり、700年もの歳月の間孤独に海を漂流する姿が描かれている(詳しくは別記の訳詩を参照)。その音楽は人智のスケールを遙かに超えた巨大な世界が描かれており、それは前述したシベリウスの暗黒期より生まれた研ぎ澄まされた音調と、「個」を超越した峻厳な内的世界を表しているとも言えるだろう。

《ルオンノタル》は後年シベリウスが「間違いなく私の最良の作品の1つだった」と語るほどの作品であったにも関わらず、そのスコアの出版はシベリウス没後の1981年まで待たねばならなかった。しかし本作はシベリウスが辿り着いた1つの音楽的極北であることは疑いようがなく、珠玉の作品として現在では国内外を問わず多くの演奏機会を得る作品となっている。

小川 至 Text by OGAWA Itaru

作曲:1913年

初演:1913年9月10日スリー・クワイアズ・フェスティバル(イングランド)にて、ハーバート・ブリューワー指揮、アイノ・アクテ独唱

編成:ソプラノ独唱、フルート2(ピッコロ持替2)、オーボエ2、クラリネット、バスクラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ2、ハープ2、弦5部

アントニン・ドヴォルザーク (1841～1904)

## 交響曲 第8番 ト長調 op.88

稀代の旋律「作家」ドヴォルザークの人気作を聴く。

ボヘミアの森の描写に、摩訶不思議な郷愁を誘うスラヴの調べ、得意の変奏技法など、この交響曲には多くのキーワードがある。チェロ、ホルン、フルートの活躍も際立つ。終楽章の開始部にはトランペットのファンファーレも添えられた。ファンファーレもこの作曲家のお家芸だ。作曲者自ら「森の鳥たちの歌に心奪われ、最高に美しい旋律が生まれそう」と出版社への手紙に記したト長調のシンフォニーは、ドヴォルザークが40歳代の後半に紡いだ会心作のひとつである。にもかかわらず、1878年以来、懇意にしてきたドイツの出版社ジムロックから初版楽譜は刊行されなかった。1882年に二長調の交響曲(今の第6番)を出版していたとはいえ、ジムロックが才能あふれるドヴォルザークに求めたのは、連弾曲や歌曲、あるいは民謡や舞曲を背景とした小品で、構築的な交響曲ではなかった。それでこの交響曲はイギリスのノヴェロ社から刊行され、一時「イギリス」なる愛称まで付いてしまった。音楽とは何の関係もない。

ただドヴォルザークが1884年の春以降、ロンドンのフィルハーモニック協会などの招きで大英帝国の首都ロンドンを都合9回訪問し、自作の宗教曲「スターバト・マーテル」を披露したほか、1885年には交響曲第7番二短調を自らのタクトで初演するなど、絶大な人気を誇ったことは歴史的事実である。国際都市ロンドンでも名声を博した「チェコ国民楽派」のスター作曲家ゆえに、ドヴォルザークは後にニューヨークから招かれるのだ。前述のボヘミア、スラヴ色とともに、凝った創りやシンフォニックな構成も聴き手を捉えて離さない。彼は「それまでに書いた交響曲とは違う方法論で主題を展開させたい」と述べていた。

曲は1889年の夏、プラハの南西50キロほどのところにあるヴィソカー村でスケッチが開始され、1890年2月にプラハで初演された。管弦の調べは、いつになくみずみずしい。初演の翌年にはハンス・リヒター指揮のウィーン・フィル定期でも演奏された。その公演を、かつてドヴォルザークの才能を作曲の審査会で見出した恩人ブラームスが聴いている。ブラームスは「素晴らしいアイデアに溢れているが、副次的で繊細な美が多すぎるのでは」と「不満」を語ったようだ。しかしそれは賛辞の裏返しだろう。ワルツ風の第3楽章、アレグレット・グラツィオーソが素晴らしい。ドヴォルザークが紡いだ、最高に魅惑的な音楽のひとつがここにある。

奥田佳道 Text by OKUDA Yoshimichi

作曲：1889年8月～11月

初演：1890年2月2日 プラハ・ホルドフィヌム、作曲者自身の指揮、プラハ国民劇場管弦楽団

編成：フルート2(ピッコロ1持替)、オーボエ2(イングリッシュホルン1持替)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ2、弦5部

## 4/20 SAT. 21 SUN.

[歌詞対訳]

訳：森下圭子

## サーリアホ：サーリコスキ歌曲集

## I. Luonnon kasvot

Mutta luonnon kasvot ovat tyynet maailman loppuun asti.  
 Kevätpäivät tuoksuvat epätarkoilta muistoilta,  
 käden, kiihtyneen hengityksen.  
 Metsä on akademia jonka barbaarit hävittivät.  
 Tuulessa kuuluu sukupuuttoon kuolleiden lintujen laulu.

## II. Jokaisella on tämänsä

Jokaisella on tästä lähtien tämänsä Johon hän on täällä sidottu.  
 Mitään ei vaihdeta enää.  
 Ei, se on tullut mahdottomaksi.  
 Sitä ei ole kielletty lailla koska se on tullut mahdottomaksi.  
 Sitä ei ole ruvettu paheksumaan koska se on tullut mahdottomaksi.  
 Tästä lähtien täällä on jokaisella tämänsä josta hän pitää kiinni.

## III. Kaikki tämä

Mutta me näemme  
 Harmaan kaislikon  
 Ja iloitsemme.  
 Mutta me kosketamme kiveä  
 Ja iloitsemme.  
 Kaikki tämä on tapahtunut hiljattain.  
 Ja me iloitsemme  
 Yhdessä kaiken kanssa mikä on.

## I. 自然の顔

しかし自然の顔は穏やか  
 世界の終わりまで。  
 春の日々は薫  
 曖昧な記憶のように、  
 手に、早まる呼吸に。  
 森は野蛮人が破壊した  
 学び舎。  
 風の中に絶滅し死に絶えた  
 鳥たちの歌が聞こえる。

## II. それぞれのこれ

この先それぞれが自分のこれを有し  
 ここに留まる  
 もう何にも換えない。  
 いや、すでに不可能だからだ。  
 法で禁じられないのは  
 すでに不可能だからだ。  
 非難されないのは  
 すでに不可能だからだ。  
 この先ここではそれぞれが  
 これを有し掴んでおくのだ。

## III. すべてこれは

しかし私たちは見る  
 灰色の葦の茂みを  
 そして喜ぶ。  
 しかし私たちは石に触れ  
 そして喜ぶ。  
 すべてこれは最近の出来事。  
 そして私たちは喜ぶ  
 すべてのものと共に。

#### IV. Minussa lintu ja käärme

Käärme puree leukansa kiinni  
eikä lintu siipiään avaa.  
Me tulimme meluisen metsän läpi.  
Ja ilman halki.  
Tätä aluetta ei kenenkään tarvitse sanoa.  
Minussa lintu ja käärme häikäilemättä.

#### IV. 私の中の鳥と蛇が

蛇は己の顎を噛みしめ  
鳥は己の翼を広げず。  
私たちは騒がしい森を抜け。  
そして空を行く。  
誰も此処のことを言う必要はない。  
私たちの中の容赦なき鳥と蛇。

#### V. Sumun läpi

Väliin jäävä aika jähmettyy vuoriksi  
Jotka näen sumun läpi katsomatta.  
(Pentti Saarikoski)

#### V. 霧を抜けて

間に残る時は固まり山になる  
眺めるともなく霧越しに見る。  
(ペンッティ・サーリコスキ)

[歌詞対訳]

訳: 森下圭子

## シベリウス:交響詩「ルオンノタル」op.70

Olipa impi ilman tyttö,  
kave, Luonnotar korea.

それは乙女、大気の娘のこと  
眩い、自然の精霊の美しさ。

Ouostui elämätään  
aina yksin ollessansa  
avaroilla autioilla.

人生を嘆く  
いつもただ独りと  
果てしない荒涼の中で。

Laskeusi lainehille,  
aalto impeä ajeli,  
vuotta seitsemänsataa.

娘は波に降り、  
波は娘を呑み込む、  
700年の時。

Vieri impi, veen emona.  
Uipi luotehet, etelät.  
Uipi kaikki ilman rannat.

乙女は水の母となり、  
北西へ、南へと泳ぎ、  
岸に着くことなく巡る。

Tuli suuri tuulen puuska.  
Meren kuohuille kohotti.

大きな突風が吹き。  
海の波が上り立つ。

## 4/20 SAT. 21 SUN.

“Voi poloinen päiviäni.  
Parempi olisi ollut  
Ilman impenä elää.  
Oi, Ukko Ylijumala,  
käy tänne kutsuttaissa.”

Tuli Sotka suora lintu,  
lenti kaikki ilman rannat,  
lenti luotehet etelät.  
Ei löyä pesän sioa.

“Ei, ei, ei.  
Teenkö tuulehen tupani,  
aalloille asuinsijani.  
Tuuli kaatavi,  
aalto viepi asuinsijani.”

Niin silloin veen emonen  
nosti polvea lainehesta.  
Siihen sorsa laativi pesänsä.  
Alkoi hautoa.

Impi tuntevi tulistuvaksi.  
Järkytti jäsenensä.  
Pesä vierähti vetehen.  
Katkieli kappaleiksi.

Muuttuivat munat kaunoisiksi.  
Munasan yläinen puoli  
ylhäiseksi taivahaksi.  
Yläpuoli valkeaista  
kuuksi kuumottamahan.  
Mi kirjavaista tähiksi taivaalle.  
Ne tähiksi taivaalle.

「ああ、哀れなる私の日々よ。  
大気の娘として  
生きるが良かった。  
ああウッコよ、最高神、  
ここへ来てはくれまいか」

ソトカが、鴨がやって来た  
岸に着くことなく巡り、  
北西へ、南へと飛び、  
巣になる場所は見つからず。

「ない、ない、ない。  
風に家を作ろうか、  
波に棲み処を作ろうか。  
風が倒し、  
波は棲み処を奪うだろう」

そのとき水の母は  
波から膝を持ち上げ。  
鴨はそこへ巣を作り。  
卵を温めはじめた。

乙女は燃えるような熱さに。  
我慢できず体を振り。  
巣は水へと転がり落ち。  
卵は割れて散り散りに。

卵は姿を変え美しく。  
卵の上半分は  
高く空に。  
上の白身は  
輝ける月に。  
殻の様子は天の星に。  
天の星となった。

# 「Colors,Future! いろいろって、未来。」 ～川崎市の過去、現在、未来～

福田紀彦(川崎市長)



ミューザ川崎シンフォニーホール ©青柳聡



川崎市長 福田紀彦

定期演奏会にお越しの皆様。川崎市長の福田紀彦です。

国内トップクラスのオーケストラである東京交響楽団のプログラムに、「なぜ川崎市長が?」と思われたお客様もいらっしゃるかもしれません。しかし、クラシック音楽ファンの皆さまならきっと一度は、「ミューザ川崎シンフォニーホール(以下「ミューザ川崎」)」という名前をお聞きになったことがあるのではないのでしょうか。そして、実際にミューザ川崎にお越しいただいたことがある、中には常連の方もいらっしゃるかもしれません。

東京交響楽団をはじめとした国内外の著名なオーケストラによる公演や「市民合唱祭」「かわさき市民第九コンサート」など市民の皆様にとって晴れの舞台となるようなコンサートまで多彩な演奏会を展開し、サー・サイモン・ラトルから「世界最高のホールのひとつ」と絶賛されるなど、その音響について定評をいただいているミューザ川崎は今から20年前、2004年

に開館しました。そして、開館の前年、東京交響楽団と川崎市はフランチャイズ提携を結び、それ以来、ミューザ川崎で日々のリハーサルを行い独自のサウンドを磨き上げながら、年間約30回の演奏会を開催し、さらに川崎市内の病院や福祉施設、児童施設でのアンサンブルコンサートを行うなど、川崎市民を始め多くの方に音楽の魅力を伝え続けていただいています。このように、東京交響楽団には、川崎市が進める「音楽のまちづくり」、ひいては、誰もが文化芸術に触れ、楽しむことができる「アート・フォー・オール」のまちづくりの一翼を担っていただいております。この場をお借りして、楽団関係者の皆様、楽団ファンの皆様に厚く御礼申し上げます。



音楽監督ラトル(左)と筆者

さて、今回、プログラムへの寄稿という貴重な機会をいただきましたので、川崎市の紹介をさせていただきたいと思います。

川崎市は、大正13(1924)年7月に3つの町村が合併して誕生し、今年、市制100周年という歴史的な節目を迎えます。神奈川県北東部に位置し、東京都と横浜市に挟まれた細長い地形の政令指定都市で、誕生時にわずか5万人弱だった人口は現在約154万人となり、政令指定都市では全国6番目の規模にまでなりました。

約400年前に東海道川崎宿が起立し、古くから、街道や宿場、川崎大師へのお参りなどで、多くの人々が行き交う場であったことから、多様な文化が根付き、新しいものに寛容な風土が育まれてきたように思います。こうした風土が、川崎市の発展の源泉となり、京浜臨海部の一翼を担う工業都市としての発展を経て、現在では、多くの先端産業が集積するとともに、文化芸術やスポーツなど多彩な魅力を有する活力ある都市として、今なお成長を続けています。

一例を挙げますと、「工場夜景」が人気となっている川崎臨海部は、今からおよそ100年前、海苔の養殖や漁業が盛んな遠浅の海でした。埋め立てによって京浜工業地帯が整備されてからは、石油産業、鉄鋼業、エネルギー施設、物流施設など、さまざまな産業が集まり、日本の高度経済成長をけん引する重要な役割を担ってきました。現在、この地区には世界最先端のライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点である「キングスカイフロント」があり、多くの企業や研究機関など新産業の担い手が集積しています。さらに、2022年3月には、川崎臨海部と対岸の羽田空港を結ぶ「多摩川スカイブリッジ」が開通し、この場所に集う人々・技術が重なり合い、新し

い価値を生み出していくエリアとなることを期待しているところです



海苔の養殖の様子(昭和42年頃) 川崎市市民ミュージアム提供



工場夜景も楽しめる「かわさきジャズクルーズ」  
©Taku Watanabe

市南部の工業・産業地帯から、川崎駅周辺的一大商業地域、武蔵小杉のタワーマンション群をはじめとする住宅地域を経て、北部には自然豊かな多摩丘陵があります。市内随一の緑の宝庫である生田緑地では、市民との協働により緑地を保全・利用しており、名作の作品世界が楽しめる「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」や川崎出身の芸術家・岡本太郎の作品を約1,800点収蔵する「川崎市岡本太郎美術館」を楽しむことができます。市内7つの区はそれぞれ違う特徴を持ち、そこに、文化的背景が異なる様々な市民が暮らしている、こうした「多様性」は川崎市の魅力の一つとなっています。

また、川崎は「スポーツのまち」でもあります。

川崎市では、「川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく」を基本理念に、スポーツを通じた市民生活の充実とスポーツを活用したまちづくりに取り組み、川崎市をホームタウンとして活躍するトップチーム(川崎フロンターレ(サッカー)、川崎ブレイベンダーズ(バスケット

「Colors,Future! いろいろって、未来。」～川崎市の過去、現在、未来～

トボール)など6チーム)を「かわさきスポーツパートナー」に認定しています。

これらのチームは、その活躍により川崎を全国にアピールするだけではなく、小学校でスポーツ教室などを開催して競技の普及をしたり、交通安全の啓発や街中の清掃活動などの地域活動を行ったりしています。こうした地域活動を通じて、チームがまちに溶け込み、さらにチームへの愛着や地域におけるつながりが深まっています。

さらに、JR武蔵溝ノ口駅前では、多くのストリートダンサーが集い練習しており、そこから数多くの世界的なダンサーが排出されるなど、ブレイキン(ブレイクダンス)の聖地と呼ばれています。こうしたスポーツパートナーや若者文化を担う人材は、音楽分野の東京交響楽団と同じく、地域づくりの一員としてなくてはならない存在となっています。



ブレイキンで盛り上がる「みんなの川崎祭」

このように様々なヒトやモノが行き交う川崎市では、ブランドメッセージとして「Colors,Future! いろいろって、未来。」を掲げています。ロゴマークは、「多彩な魅力を持つ川崎の多様性を包含するイメージ」を打ち出すため、赤、緑、青という光の三原色で



「川」の字を構成し、川崎の魅力を表現するとともに、交じり合うことでどんな色でも作り出すことができる多様性も表現しています。

川崎駅は羽田空港から電車でわずか15分という場所にあり、ビジネスだけでなく多くの観光客に立ち寄っていただける可能性のあるまちだと捉えています。日本を訪れる外国人観光客も飛躍的に増えてきており、国内外の多くの方にミュージアム川崎や浮世絵ギャラリーなどの文化施設、「川崎夜市」や「みんなの川崎祭」などの川崎ならではのイベントを体験し、川崎の無限の可能性を肌で感じていただけるよう、川崎の楽しさ、魅力を発信していきたいと思っています。



JR川崎駅北口直結「川崎浮世絵ギャラリー」



食と音楽の融合で新たな夜の魅力を発信する「川崎夜市」

そして、川崎に集まった多様な人たちの、「好き」が掛け合わり、新しい可能性が広がっていくことをまちづくりの原動力として、未来に進んでいきたいと思っています。

# Together With TSO

for Music Lovers

## 東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人  
会  
員

### プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス  
株式会社ドワンゴ

### ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人  
株式会社伊藤総合事務所  
株式会社イノアックコーポレーション  
株式会社インサイド・アウト  
環境ステーション株式会社  
株式会社すかいらーくホールディングス  
株式会社ティー ワイ リミテッド  
株式会社日本財託  
株式会社パソナグループ

### ゴールド会員

株式会社青山メインランド  
株式会社あ佳音  
オリエンタル酵母工業株式会社  
サントリーホールディングス株式会社  
社会医療法人財団石心会  
玉川学園・玉川大学  
玉の肌石鹸株式会社  
中外製薬株式会社  
銚子屋油槽船株式会社  
株式会社TFDコーポレーション  
株式会社鉄鋼ビルディング  
株式会社トーションパートナーズ  
西松建設株式会社  
株式会社NIPPO  
株式会社日本M&Aセンター  
ヒノキ新薬株式会社  
司法書士法人ふなざき総合事務所  
ミヨシ油脂株式会社  
ヤマザキビスケット株式会社

### シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト  
公益財団法人青梅佐藤財団  
川崎信用金庫  
松竹株式会社  
月島食品工業株式会社  
東京鐵鋼株式会社  
司法書士法人村田事務所

### ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社  
NPO法人かわさき市民アカデミー  
酒蔵駒八 別館  
株式会社シグマコミュニケーションズ  
新宿村スタジオ  
有限会社青史堂印刷  
ニッシンエレクトロ株式会社  
富士フィルムビジネス  
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社  
前山歯科医院  
株式会社LALLヒューマンホールディングス

### 賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程  
政鬼運輸株式会社  
山崎製パン株式会社

匿名2社







©N.Ikegami

## <東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

### 個人会員

フレンズ1

年額1万円  
～29,999円

フレンズ3

年額3万円  
～49,999円

フレンズ5

年額5万円  
～99,999円

サークル10

年額10万円  
～249,999円

サークル25

年額25万円  
～499,999円

サークル50

年額50万円～

### 法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員		フレンズ会員		
		サークル 会員	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1	
主催公演へご案内		○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○	○
ご芳名掲載		○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1		○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2		○	○	○	○	○

\*1 一部対象外もございます。\*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

### 税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分\*3について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。\*3

\*3但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

# Meet the Musicians

楽団員紹介

温故知新、常に学び続けるホルニスト

## 阪本 正彦

SAKAMOTO Masahiko

[ホルン奏者]1986年9月入団

趣味：読書、ナンバークロス、Duolingoで英語勉強



©N.Ikegami

### 軽音楽部から吹奏楽部へ

幼少期から音楽に興味があったのか、NHK教育「バイオリンのおけいこ」でヴァイオリンに憧れ、安価なオルガンを買ってもらい、その後は歌謡曲、洋楽やフォークソングにはまってギターをはじめ、中学校では軽音楽部に入部。当時は「軽音楽部は不良が集まる」との風評があり廃部となってしまう、その後誘われた吹奏楽部でホルンと出会いました。元々はトロンボーンを希望したもののホルンに割り当てられ、最初は楽器もなく、メロフォンでホルンパートを吹いていました。

音楽の道を志したのは、高校1年生の夏前。楽器で演奏するのが楽しくて仕方が無かった時期で、当時藝大生で指導に来ていた宮下宣子さん(元新日フィル首席トロンボーン)や、宇田紀夫さん(日本フィル)が「藝大は一日中楽器を吹くことができる場所だよ」と仰っていたのを聞いて、絶対に進学しよう、と決めました。

### スコアと向き合う生活に

ホルン奏者として、アマチュアオーケストラの合奏や分奏を指導していくうちに「指揮を学ばなければ」と感じるようになり、勉強を始めました。指揮クラスを聴講したり、マスタークラスに参加したり、若い人たちと共にスコア

と向き合い勉強する生活は、ホルン奏者としての音楽づくりにも大きな変化を生みました。

指揮へのモチベーションは、当時の音楽監督スダーンさんの存在が大きかったように感じます。彼の指揮で、モーツァルトやハイドンなどの古典に対する抵抗感がぐっと減りましたし、演奏会はリハーサルと打って変わって、とても自由で楽しい。私自身が体験したことを、スダーンさんと同じように、後進に伝えたいという思いが強くあります。

初代音楽監督の秋山さん、そしてスダーンさんとの音楽が、今の東響のベースとなり、そこにノット監督が新たな課題を与えてくれたことに加え、若い方々の加入により東響は私が入団した頃よりも演奏内容が格段にアップした楽団となりました。これからも成長し続けていくオーケストラだと思います。



フィンランドで受講した指揮のマスタークラス。  
ヨルマ・バヌラ先生(前列左から4人目)と、阪本さん(前列右から3人目)。

インタビュー：事務局

# NEWS & TOPICS

## 音楽監督ジョナサン・ノット 2026年3月にて任期を満了

東京交響楽団は、音楽監督ジョナサン・ノットとの音楽の旅のコラボレーションの12シーズン目が終わるにあたり、楽団の歴史における次の章へ移行する準備を行い、新しい音楽監督を迎え新たな挑戦を行うことといたしました。東京交響楽団楽員一同と事務局は、音楽監督ジョナサン・ノットを敬愛しており、この10年以上の間その音楽創りを大きな喜びをもって共有し、その想いは現在も変わりありません。ノット氏の数々の功績を称え、深い敬意の念を示すとともに、これからの2年間の1公演ずつを大切にしながら、新たな章へと歩みを進めて参りたいと考えております。引き続き皆様にはご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

私は、素晴らしい楽員たちと共に、最高にエキサイティングな音楽作りを、東京の素晴らしい聴衆の皆様披露することを約束しました。最近、批評家と聴衆の皆様両方から最高の賛辞を頂いたことは大変光栄なことです。

この最後の2年間で共に過ごすことをとても楽しみにしており、東京交響楽団が次の音楽の旅で引き続き大きな成功を収めることを願っています。

ジョナサン・ノット



## コンサートマスター陣 役職名変更のお知らせ

2024年4月1日より、コンサートマスター、アシスタント・コンサートマスターの役職名を以下の通り変更いたしました。

旧来の役職名  
コンサートマスター  
(英: Concertmaster) 小林 幸成  
コンサートマスター  
(英: Concertmaster) グレブ・ニキティン  
アシスタント・コンサートマスター  
(英: Assistant Concertmaster) 田尻 順

新役職名  
第1コンサートマスター  
(英: First Concertmaster) 小林 幸成  
第1コンサートマスター  
(英: First Concertmaster) グレブ・ニキティン  
コンサートマスター  
(英: Concertmaster) 田尻 順

退

団

2024年4月26日付

阪本正彦 SAKAMOTO Masahiko [ホルン奏者]

1986年に入団し、37年に渡り活躍いたしました。このたび定年を迎え、退団いたします。



# Tokyo Symphony Orchestra Asia Project



## ～東京交響楽団アジア・プロジェクトとは～

独立行政法人日本芸術文化振興会が募集した＜新たなオーケストラ支援事業＞の3年間の助成に、東京交響楽団が提案した『東京交響楽団のアジアを拠点とする新たな取り組み』が採択され、「東京交響楽団 アジア・プロジェクト」を開始しました。これまでの日本のオーケストラの海外公演とは異なった新しい形で、アジアに新たな拠点を築き、日本からアジア全体へと視野を広げて、多角的な活動を展開してまいります。

## Report

2024年3月22日

### 東京交響楽団 特別演奏会 in バンコク

アジア・プロジェクト最初のバンコク公演を、タイ文化センターにて開催しました。タイでクラシックの演奏会チケットが売り切れることはまずないと言われていたところ、SNS等の宣伝も功を奏し、チケットは完売、多くの現地メディアにも注目されて、開演前に大友直人さん(指揮)、服部百音さん(Vn)、廣岡楽団長が記者対応を行なう場面もありました。

タイでは「国王讃歌」で演奏会を始めます。続くシベリウスのヴァイオリン協奏曲では、その情熱的な演奏で聴衆を魅了し、熱狂的な歓声上がるほど。服部さんソロ・アンコール2曲で応えていました。そして、ブラームス交響曲第1番では、当団の芸術性と音楽にかける想いをタイの聴衆に伝えて大きな手ごたえを感じ、楽団員にとっても深い感動と記憶に残る夜になりました。これからもアジアのクラシックファンを増やし、交流を通して音楽レベルを上げていく活動を続けていきます。



チケットは完売、会場は熱気に包まれました



シベリウス：ヴァイオリン協奏曲の様子



ヴァイオリン：服部百音（歓声に響いて）



指揮：大友直人（ブラームス：交響曲第1番）



現地TV局をはじめ多くのメディアから注目を集めました。

## 仕事終わりの1杯

3月のバンコクは降水量が少なく、1年で最も暑い季節。この日も30℃を超える気温で冷房は欠かせません。そんな中、演奏を終えた楽員を、ロイヤルバンコク交響楽団のメンバーがタイを代表する「シンハービール」と共にお出迎え！夜でもまだ暑い気温と、演奏会の熱気はキンキンに冷えたビールと共にクールダウン。パートナーシップを結んだ者同士の、つかぬ間の交流を楽しみました。



ロイヤルバンコク交響楽団のハラルド・リンク理事長と歓談する、岡崎哲也理事長

## 日本大使館の強力なサポート

アジア・プロジェクトのタイでの活動には、在タイ日本大使館の強力なサポートをいただきました。2月のパートナーシップ調印式に大使館のホールを貸していただいたこと、翌日のナショナルデーレセプションで弦楽合奏が演奏し、宣伝用ブースもいただけたこと、そして、今回の演奏会には着任されたばかりの大鷹正人大使にもご臨席賜りました。気さくな人柄の大使は、ロビーでの写真撮影に応じたり、終演後のレセプションでも、演奏に感動して涙したというご挨拶をいただき、一同感激。これからの活動でも、お世話になります。



スピーチをする大鷹正人在タイ日本大使

# NEXT PROGRAM

音楽監督ジョナサン・ノットとのシーズン11がスタート!

人生此処にあり。「大地の歌」

5/11 (土) 川崎定期演奏会 第96回  
14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール  
12 (日) 第720回 定期演奏会  
14:00 サントリーホール

- ・指揮: ジョナサン・ノット
- ・ソプラノ: 高橋絵理
- ・メゾソプラノ: ドロティア・ラング
- ・テノール: ベンヤミン・ブルンス
- ・武満徹: 鳥は星形の庭に降りる
- ・ベルク: 演奏会用アリア「ぶどう酒」
- ・マーラー: 大地の歌

[5/11] S¥9,500 A¥7,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,500  
[5/12] S¥9,500 A¥7,500 B¥6,500 C¥4,500 P¥3,500



2人のヴィオラ奏者、地中海を往く。

5/17 (金) 東京オペラシリーズ 第138回  
19:00 東京オペラシティコンサートホール

※5/18 (土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホールでも同プログラム公演を開催

- ・指揮: ジョナサン・ノット
- ・ヴィオラ: 青木篤子 (東響首席) \*
- ・ヴィオラ: サオ・スレーズ・ラリヴィエール\*\*
- ・ベルリオーズ: 交響曲「イタリアのハロルド」op.16\*
- ・酒井健治: ヴィオラ協奏曲「ヒストリア」\*\*
- ・イベール: 交響組曲「寄港地」

S¥8,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00 ~ 18:00 / 土日祝休)

# 東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ  
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」「10歳からのオーケストラ」等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」では2022年に《サロメ》が第2位、23年には《エレクトラ》が第1位に選出された。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. "Elektra in Concert Style(2023)" won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of "Salome in Concert Style(2022)" on Ongaku no Tomo magazine as well as the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra' s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO' s home and Mozart' s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料招待】



NICO NICO  
TOKYO SYMPHONY  
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト  
[TSO MUSIC & VIDEO  
SUBSCRIPTION]

1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE  
**Symphony**

Symphony 2024年(令和6年)4月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエイト